



キツネなどの哺乳類の多くも、昼間よりも夜に動きます。静かにじっとしていると生き物たちの動く音が聞こえるかもしれません。



夕暮れ時に活動する動物を観察。ヤマシギが鳴きながら飛んでいました。



夜の森の生き物ーフクロウ

野幌森林公園はフクロウの棲む森として知られています。今回の「夜の森へゆこう」では、残念ながら出会うことはできませんでしたので、フクロウについてご紹介します。

フクロウは全長 50 cm、およそカラスくらいの大きさです。夜行性で、昼間は木のウロなどで休んでいて、夜に活動します。一年中、同じ森に住んでいるようです。

小鳥やカエル、クワガタなどの大きな昆虫も食べますが、主食はノネズミ。ノネズミも夜になると出てきます。フクロウは大きな目を持っていて、少しの明かりがあれば見ることができます。首は真後ろまで回すことができ、木の上から前後左右を見渡して、獲物が出てくるのを見張っています。耳もとてもよく、獲物が少しでも音を立てれば、どこにいるかがわかります。

翼の羽根はやわらかく、飛ぶ時に音がしません。音もな

く、獲物に襲いかかることができるようになっています。

このように、夜の森で狩りをするのに最適のからだを持っていますが、昼間はじっと休んでいます。そんなとき、小鳥たちがフクロウを見つけると、まわりに集まって騒ぎ立てることがあります。このような行動をモビング(擬攻撃)といいます。自分たちを襲うかもしれないフクロウを、嫌がらせをして追い出そうとしているかのようです。なぜかはわかりませんが、小鳥たちにモビングを受けてもフクロウはじっとしているだけで、決して反撃することはありません。



コラム しまちゃん